

■オーストラリア：地方の市長、原子力発電を要望

現地メディアは2013年12月4日、クイーンズランド（QLD）州北西部マウント・アイザのマググレイディー市長が、電力不足の解消と新たな鉱山開発を目的に、同州北部地域に原子力発電所を建設すべきとの考えを明らかにしたと報じた。QLD州政府は2012年、約30年ぶりにウラン鉱山の新規開発を解禁した。同市長によると、原子力発電所は、同州北西部にある豊富なウランの活用とともに、ベース電源確保による供給力の底上げにつながるとしている。一方、ノースQLD保全審議会（NQCC）は、環境や人体へのリスクを理由に、QLD州エネルギー相も石炭・ガス火力発電などの低コスト・エネルギーが豊富にあることなどを理由に、それぞれ反対の姿勢を示している。